

ホツマツタエ「ゆかりの地」を歩く
長崎県・高来の古里を考える

(第27号)

再発見

吉田六雄

タカク・高来 ホツマツタエ「ゆかりの地」を歩く

この「タカク」の言葉に、皆さんは何を連想されますか？このタカクという言葉がホツマツタエ文庫に登場するのは、38-65文に1回きりである。この1回きりの言葉に「アガタ・県」を付け加えると、地名であることがわかる。このタカクの地名は、私の古里の旧地名である。タカクを漢字で表すと「高来」になる。だが旧古里の読み方は「タカク」が「タカギ」に変化していた。私の古里の住所を明治時代の初期の住所で表すと、長崎県南高来郡杉谷村になる。だがその「南高来郡」の住所も今回の平成の改革において姿を消してしまった……。長崎県で残るは多良岳の麓の「諫早市高来町」だけになった。余談であるが長崎県には、旧北高来郡、旧南高来郡があり、大村市～高来町(旧北高来郡)～諫早市～雲仙温泉・平成新山を有する島原半島(旧南高来郡)の広範囲が、旧高来になる。

その「タカギ」の元になったであろう「タカク」についてホツマツタエ文庫を見ると、景行天皇の御世に記述されている。38-64文～65文には、筑紫の熊曾が、景行天皇の命に従わなかったため、景行天皇自ら筑紫を巡幸され、熊曾を征伐された折りに(現)熊本県の八代(不知火国)～有明海を船で渡られ、8月3日に(現)長崎県旧高来郡に到着される。ここに地名の「タカク」が出で来る。だがここでの「タカク」の本来の意味は、わからず終いであった。

38-64文～65文

岸に上がりて
何村と 問えば八代
トヨ村の 焚く火を問えば
主を得ず 人の火ならず
不知火の 国と名付くる
セミナ三日 タカク県の
舟渡し

タカクの意味

神奈川県は古の「ホツマの国の一部」になる。そのためにホツマツタエ「ゆかりの地」が多く取材には事欠かないのがうれしい。そんな折り「オトタチバナ姫の年齢」の原稿取材のため、2002年6月頃横浜より1号線沿いに車を飛ばした。取材先は、神奈川県中郡二宮町である。検証ホツマツタエ3号を読んで戴いた読者には、取材先がもうわかったことでしょう。そうです。吾妻山の吾妻神社でした。吾妻神社は大磯町に近く、一般的にはオトタチバナ姫の袖が流れつuitと云われ、海岸は「袖ヶ浦」と称していた。

だが今回のお話は「タカク」である。先ほど吾妻神社と何の関係していると思いながら読んで戴いていることでしょうか。直接は関係ありませんが、吾妻神社に至るまでの道中に「平塚七夕」で有名な平塚市がある。その平塚市街を過ぎた頃の真向かいに小高い三角の山が見える。その山を右手に見た小さな交差点の地名標識は、「高来神社」になっていた。タカギ神社と読むのかなあと思

いローマ字読みを見ると「TAKAKU-JINJIYA」になっていた。たがこの時点では、高来と書いて「タカク」とも読むのかの程度でした。

その後、高来神社のある住所を地図で調べると平塚市高麗町になっており、あの小高い三角の山は高麗山であることがわかった。高麗は朝鮮の古の国である「高麗」を意味することは、歴史を志す人は基本的な知識であろうか。するとこの地区の人たちの中には、朝鮮の高麗を古里にする人たちが日本に帰化し住んでいることを意味する。すると高来の意味は、「高麗より来た」ことを意味し、言葉の短縮化で「高来」になったことがわかってきた。

高来神社

高来神社は、高麗山を神奈備山とする典型的な古来型の神社である。参道の入り口は大きな鳥居が立っている。鳥居を過ぎると緩やかな登りで参道の中央が石畳で、左右は階段状の道になっており奥行きが約2mくらいでの緩やかな階段になっている。途中は7段の急な階段がありまた神社の拝殿の前にも11段の階段がある。

高来神社の由来について、ご由緒書の案内を見ると「御祭神 神皇産霊尊、ニニキネ尊、神皇皇后、應神天皇」となっており、「高来神社は類聚和名鈔(注)に相模大住都高来郷とあり」と高来という言葉が記載されていた。

この倭名類聚鈔の作成から高来という言葉は、931～938年頃には既にあったことが、このことからわかってくる。また御祭神の神皇皇后は日本書紀の記述を見ると三韓征伐をしており、古代朝鮮との関係が深かったことが伺われ新羅、高麗、百濟より日本に帰化したことが推定される。そのことで高来は、「高麗より来る」の意味になる。

(注)

「類聚(るいじゅ)」とは、同じ種類のものをそれぞれ一つに聚める意で、倭名類聚鈔のことと思われる。倭名類聚鈔は承平年間(931～938年)に作成された、我が国最古の辞書といわれ源順(みなもとのしたごう)撰進がある。

(高来神社についてはホームページに詳しく掲載されているため一読をお進めします。)

長崎県・高来での、タカクの意味

高来は、「高麗より来た」の意味になると説明してきたが、本当に「掛詞」でいいのか。少し疑問になってきたため古代朝鮮における、高麗の建国～滅亡年代を調べて見た。すると高麗の年代は、918～1392年までになっていた。またホツマツタエの38-64文～65文での景行天皇が、(現)熊本県の八代(不知火国)～(現)長崎県旧高来郡へ船で有明海を渡られたのが8月3日である。この日は景行天皇18年8月3日であり、西暦に換算すると西暦87年のことになる。すると景行天皇が有明海を船で渡られた時には831年も前で、朝鮮半島には未だ「高麗」の国は存在しなかったことになる。

そうなると「タカク」？ の意味が不明になってくる。そこでこれにはもっと秘密が隠されていないか、高麗より古い年代に「高」が付く国がないかと考えて、更に調べて見ると高句麗の国が存在していた。高句麗の建国～滅亡までの年代は、紀元前37年～668年になっていた。そうなると景行天皇が有明海を渡られた西暦87年は、高句麗の国が存在していたことになる。それも建国後の123年後のことであった。このことからホツマツタエ文献に記述の「タカク・高来」は、「高句麗より来る」の意味が年代的に合うと思える。

中国より朝鮮への漢字の伝来

タカク・高来の意味は「高句麗より来る」と推定した。だが「高来」の元になった「タカク」は漢字で「高・タカ」「来・ク」と考えたが、西暦 87 年に果たして漢字が伝来していただろうか。まして高句麗、朝鮮への漢字の伝来時期はいったったであろうか。

調べて見ると、朝鮮半島に漢字が伝来したのは、紀元前 2 世紀頃と言われている。そして朝鮮半島に漢字文化が広く伝わったのは、漢の武帝時代の紀元前 110 頃と云われる。このことから高句麗の国が存在した紀元前 37 年～668 年より遙か以前の紀元前 2 世紀頃や紀元前 110 頃に、中国より朝鮮半島に漢字が伝来した。

漢字の伝来から見る「高来」

また日本への漢字の伝来は、応神天皇 16 年に百済の王仁が来朝して論語十巻と千字文一卷を伝えたのが最初とされている。だが景行天皇 18 年・西暦 87 年 8 月 3 日のホツマツタエ文献の記述に「セミナ三日 タカク県の 舟渡し」の記述がある。その「タカク」は「タカク」→「高来」→「高」＋「来」→「高句麗より来る」と考えられところから、日本への漢字の伝来は応神天皇 16 年より遙か以前に伝来していた可能性が高い様だ。まして古くより日本語が存在したのは確かであり古代人の英知を考えると、「高句麗より人が来て住んだ土地」を「高来・タカク」と呼んだことは容易に推定がつく。同様にして平塚市の高来郷の起こりも、わかって来た様な気がする。

余談であるが時々古里に帰省し「タカク」と思いながら、すれ違う人たちの顔を眺める。すれ違う約 80% の人たちが、目の瞼が「一重瞼」であることに気付く。このことは一般的に「弥生人」が多いことを意味し、「タカクの到来」を意味している様だ。そんな私は残念ながら二重の瞼で「縄文人」であり、古代に「タカク」の祖先を持ってなかったことになる。

「高」→「タカ」の読み方

今回「タカク」を「高句麗より来る」と考えたが、それにしても日本へ漢字が伝来しているか否かの西暦 87 年 8 月 3 日のホツマツタエ文献の記述である。この時代に本当に「高」の漢字を「タカ」と読んでいただろうか。まずは古代に「高句麗」の言葉が高句麗語で、そのまま伝わってきたと考えて、高句麗語ではどんな発音をしたであろうかと調べて見た。だが現在では、高句麗語自身の発音が掴めない様である。もし高句麗語での読み方が、掴めている方は教えて下さい。

そこで参考に現在の韓国語での高句麗の発音を調べて見た。その結果「コクロ」と発音する様だ。また高麗は「コロ」であった。従って「高」は「コ」と発音し、日本語の音読みの「コ」と同じであった。すると「高」を「タカ」と発音する方法は、現在の日本語の訓読みでも「タカ」であり「高」の言葉について、双方の国で意味が同じ言葉に、母国語を当てて言葉を作る漢字作成方法から、「高句麗より来る」を「タカク」と短縮形で表現した言葉の様である。だがこの真偽については、今後の読者の判断を待ちたいと思う。なお「タカク」言葉の様に「ホツマツタエ」文献には、古代と現在に共通する言葉が多数あり研究材料には事欠かない。

タカクの一音節の意味

因みに「タカク」を一音節で訳して見ると、
タ・・・統治、
カ・・・日・太陽、
ク・・・国、になる。

そうすると「タカク」の意味は、統治された太陽の国になる。そう言えば私の叔父の宮崎康平が夢見た、邪馬台国は「タカク」周辺の有明海を想定していた様に記憶している。

景行天皇が渡った「タカク」

「タカクの地」の場所探し。景行天皇が渡った「タカク」の場所は、現在のどこの地名に当たるのであろうか。ホツマツタエ文献では、景行天皇の行動を「五月初日八代トヨ村」→「六月三日タカク県」→「タマガナ村(玉名)」→「十六日阿蘇国」と記述している。このことを現在に置き直すと、熊本県八代市→三角町と天草島々の間→長崎県の島原半島→諫早市高来町→熊本県玉名市→阿蘇に至ったことになる様だ。それにしても、景行天皇の船旅は楽しかったであろうか。熊本県側より観る島原半島、それも海に浮かぶ雲仙岳の景色は「風光明媚」である。まして夕日に浮かぶ雲仙岳、平成新山は格別である。また島原の九十九島も小舟から眺められたと思うと古代も現在も「船旅」は特別に楽しかったであろうか・・・・。

(おわり)